

平成 26 年度認知症専門部会においてガイドブック（案）に寄せられた意見

◆コンセプトについて

- ・認知症への対応の入り口部分の道しるべ、安心感につながることを重視する。

◆認知症の症状・気づきについて

- ・地域の人が初期のサインを見逃さないための例、地域の視点もほしい。
- ・認知症が進んだ方の症状が取り上げられているが、初期の段階の症状と対応の仕方を載せたい。
- ・日常的に「あれっ」と思うことを細かく上げていく方が参考になる。
- ・認知症の人はこれだけ増えるから近所で支えていきましょう、一般の人と一緒に支えていきましょうといったことにも触れておくとよい。

◆相談・医療・支援機関の紹介について

- ・サービスの細かい説明は掲載しなくて良い。
- ・サービスの案内については、問合せ先を載せたり、高齢者相談センターの窓口にご相談くださいという内容にし、細かな説明は省略してよい。
- ・地域包括ケアの図は、どのサービスを受けるのか疑問が出るので、相談から状態にあったサービスが選べるという流れの方が安心できる。
- ・介護家族会のマップは、詳細な家族会紹介マップがあること紹介するとマップが普及されてよい。
- ・介護サービスは、本人のできない部分を支えて自宅での生活を長く継続させるものという活用のイメージを載せるとよい。

◆ケアパスについて

- ・ケアパスの細かい図はあまり意味がない。
- ・見開きにして、経過と症状、それに応じたサービスが一覧で見られると良い。
- ・経過からそれに対応する事例にジャンプできるようになるとわかりやすい。
- ・本人のできる部分を尊重し、できない部分を手助けすれば、地域での生活を続けていけるということに触れてほしい。

◆事例について

- ・本人や家族がしゃべっているように吹きだしに簡単な言葉でよい。その下にポイントとして解説があれば読む気になる。
- ・やわらかい言い回しにして、Aさんより練馬花子さんという書きの方が親しみが持てる。
- ・専門用語の説明をどうするか考える必要がある。
- ・マンガのようにできないか
- ・一人の人の経過をおった方が一般の人にはわかりやすいのでは。
- ・いろいろな事例があったほうがこういうのもあるねと思ってもらえる。

- ・若年性認知症の事例は載せるべき。若年性認知症の家族会にも触れては。
- ・サービスを選ぶのはあくまでも利用者ということをアピールすべき。
- ・家族会を利用している事例もほしい。
- ・サービスを使ってポジティブな結果が出たと強調できる書き方がよい。
- ・「安心」イコール「何かを楽しんでいます」的な表現では、サービス有きの受身的な印象を与えかねない。今までの生活に沿った自立した生活ができるような支援があることが「安心」というイメージを伝える方がよい。

#### ◆その他

- ・認知症になりにくい身体づくりについてコラム的に触れてあるが、認知症になっても進行を遅らせるように、こういう生活をした方がいいということも取り上げてほしい。
- ・携帯電話を利用するお年寄りも多いQRコードで区のホームページの案内に飛べるとよい。